

世界的に貴重な鳥
オオセッカを大切に！

(河川環境保全モニター 一色安義)

オオセッカは世界に 2500 羽、そのうちの 1000 羽が日本に生息しているというごく数の少ない鳥で、近い将来に絶滅の危険性が高い種とされています。

オオセッカは、海に近い、ヨシが疎らに生えているスゲ類やイネ科の草原で繁殖するとされてきましたが、内陸湿地である渡良瀬遊水地でも、10 年ほど前から繁殖していることが分かりました。

オオセッカは、79 年前（昭和 11 年）に宮城県の蒲生で、日本の固有亜種として、繁殖が初めて確認された、比較的新しい種で、小翼羽に爪のあとが残っている原始的な種とされています。

当時は、宮城県蒲生と石巻周辺だけに少数が繁殖していましたが消滅、繁殖地不明となっていました。その後、青森県の岩木川河口付近（約 100 羽）、同県仏沼湿原（約 200 羽）、秋田県の八郎潟干拓地、利根川下流域（約 100 羽）で繁殖が確認されましたが、120 羽以上が生息していると言われた八郎潟干拓地（大潟村）では消滅してしまいました。仏沼でも一時消滅しましたが、地元の努力により現在は復活しているそうです。

渡良瀬遊水地では、平成 7 年 11 月にバンデング調査のために、オオセッカ 1 羽が捕獲されていますが、定着しているものか移動中のものかは不明です。

その後、先進地でオオセッカの生態について学んでき、渡良瀬遊水地でも繁殖期に轉りがあるのを確認しました。

それによって調べた結果、轉る雄の数の最近 5 カ年の推移は、平成 22 年 4 羽、23 年 7 羽、24 年 13 羽、25 年 21 羽、26 年 11 羽（追加調査分を加えて 15 羽）と増加傾向にあったものが、昨年（平成 26 年）は前年比で減少になっています。なお、オオセッカは一夫多妻です。繁殖しないものもいるでしょうから、さえずり数の 2 倍がおおよその生息数と考えてよいと思います

オオセッカの繁殖地は限られていて、環境の変化に敏感です。オオセッカが消滅してしまった先進地もあります。現在の繁殖地の保全が大変重要です。特に内陸湿地である渡良瀬遊水地での繁殖は貴重です。

オオセッカの繁殖縄張りは広くありません。草むらを潜行しますが、特異な声で「さえずり飛翔」を繰り返しますので、慣れれば発見は楽です。

渡良瀬遊水地で、いつまでも、オオセッカの撮影が出来るためにも、オオセッカの貴重さを理解し、大切にさせて頂けるよう、お願いします。



以上